

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	高等学校	事例提供者	都立六本木高等学校
学年	2年次～	教科等	美術（ビジュアルデザイン）
単元名	ロゴデザイン		
主な ICT 機器	・タブレット PC（キーボード付き Windows 機／一人 1 台）		
授業の概要	生徒が架空の企業を設定し、その企業ロゴマークをデザインする活動を通して、デザインするものの目的や条件を検討したり、色、文字、配置などを工夫したりして、伝達目的に応じた表現について理解を深める。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報活用	STEP5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド等を用いて、情報を効率的に管理・活用できる ・目的に応じて収集した資料を多角的に考察し、新たな意味を見いだせる ・相手や目的に応じて、効果的に表現できる

本事例における教育の情報化について

【ポイント 1】	<p>ICT 機器を利用するためのジェネリックスキルを活用</p> <p>本校の生徒は、ホームルームや情報科等の授業を通して、タイピング、ファイルの呼び出し・保存、オフィス系ソフトの操作方法などを学び、ICT の基本的操作を身に付けている。これにより、各科目で ICT を活用した学習指導を円滑に行える。</p>
【ポイント 2】	<p>Microsoft Teams の活用</p> <p>生徒は Teams 内で履修している各科目の「チーム」に所属し、授業の連絡や課題提出等に Teams を活用している。また、アンケート機能を用いて生徒の学習の振り返りを収集し、生徒へのフィードバックや教員の授業改善に活かしている。</p>
【ポイント 3】	<p>Microsoft 365 を制作活動で活用</p> <p>本事例では、生徒は Microsoft365 の Excel を用いて、オリジナルのロゴマークをデザインした。Excel には図形を描画する機能があり、図形をベクターデータとして保存できる。また、立体やベジェ曲線も扱うことができる。ベクターデータを扱う専用のソフトウェアとして Adobe 社の Illustrator や Photoshop 等があるが、本事例では、一般的な PC にも入っている可能性の高い Excel を用いた描画に挑戦した。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

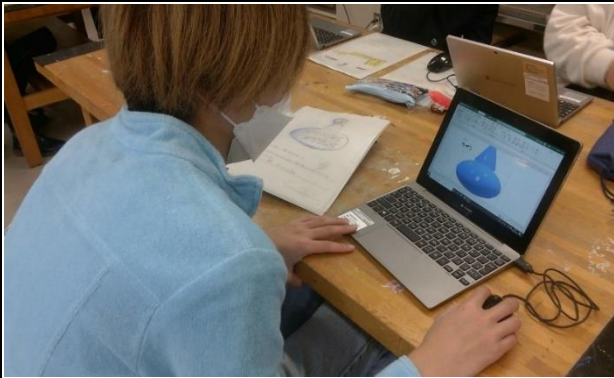
時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1	<p>●ロゴデザインの検索と収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業のロゴマークについて、色の組み合わせ、文字の形、色や形により与えたい印象を分析し、企業イメージとデザインの関連性を学ぶ。 	<p>○Web 検索によって様々な企業のロゴを収集し、既存のロゴマークにおけるデザインの意図を分析させることで、主体的に課題に取り組めるようにする。</p> <p>☆既存のロゴマークの色や形から企業イメージを読み解き、言語化したうえでオリジナルデザインに活かそうとしている。</p>
2	<p>●アイデアスケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・架空の企業を設定(事業内容、顧客層)し、設定したブランドイメージに合うロゴマークを色鉛筆でスケッチする。 ・複数のアイデアスケッチから採用するロゴマーク選択する。 	<p>○プロジェクターや画像資料を活用し、既存のロゴマークの良さを学ぶことでデザインの意図を明確にさせ、主体的に課題に取り組めるようにする。</p> <p>☆複数のアイデアを提案することができる。</p> <p>☆想定した企業イメージを踏まえて最適解を選択しようとしている。</p>
3 (本時)	<p>●ロゴマークの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excel の図形を組み合わせ、頂点編集で形を編集してアイデアスケッチのロゴをベクターデータで作成する。 	<p>○Excel の扱い方で戸惑うことのないよう、机間指導でサポートする。</p> <p>☆大きなパーツから作るなど、適切な順序で作業を進めている。</p> <p>☆色、文字、配置などを工夫したりして、伝達目的に応じた表現しようとしている。</p>
4	<p>●シルクスクリーン印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーン（孔版）の仕組みを知り、準備した T シャツなどに印刷しオリジナルロゴのプリントされたグッズ制作作業に取り組む。 	<p>○シルクスクリーン作業を通して孔版の仕組みを伝える。道具の扱いや片付け方についてもレクチャーしながら進める。</p> <p>☆作業を通して孔版の仕組みを理解する。</p> <p>☆道具の扱いや片付け方について学び、場を美しく整理しながら作業を進めることができる。</p>

本時の流れ

段階	● 主な学習活動・生徒の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習目標を確認する。 ・ 学習目標を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が学習に円滑に取り組めるように、具体的な作例を提示する。
<p>自分で考えた企業の、ロゴマークをデザインしよう！</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● Excel で図形を描画する方法を知る。 ・ ベクターデータとラスターデータのそれぞれの特徴と活用場面を知る。 ・ ベジェ曲線の特長と描画方法を知る。 ・ Excel による図形の描画方法を知る。 ● Excel でロゴマークを制作する。 ・ 基本図形の呼び出し、頂点編集による成形、色替え、組み合わせによる操作を実行し、手描きのロゴデザインをベクターデータで作成する。 ・ 色見本を見ながら感覚で色を指定したり、数値対応表を見ながら、数値入力したりして色を指定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PC の扱いについて作業に行き詰まることがないように、机間指導によって生徒の作業をサポートする。 ○ 大きなパーツから作るなど、適切な順序で作業を進めるよう支援する。 ☆ 色、文字、配置などを工夫したりして、伝達目的に応じた表現しようとしている。【思考力・判断力・表現力等】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品提出 ・ 仕上がった図形 Excel データを、Teams を通じて提出する。 ・ 提出された図形データをスライド表示し、ほかの生徒の作品を鑑賞して感想を交換し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題提出をスムーズに行えるようにサポートする。 ○ それぞれのデザインの良さを言語化し、声掛けできる雰囲気を作る。

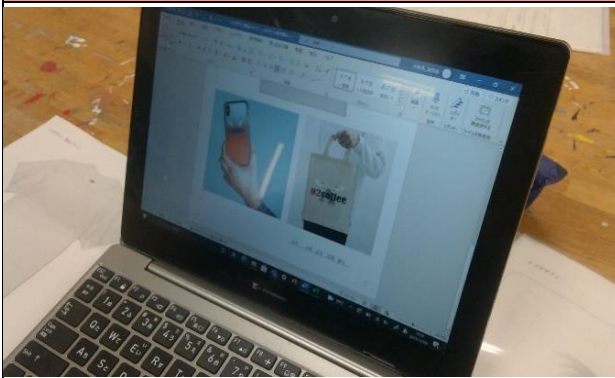
授業の実際

【ポイント1】 ICT 機器を利用するためのジェネリックスキルを活用



生徒は一人1台のタブレットPCを所持している。タイピングやファイル保存などICTのジェネリックスキル（基本的操作）はホームルームや情報科の授業等で身に付けており、各科目の授業でICT機器を円滑に活用できる。

【ポイント2】 Microsoft Teams の活用



一人一人が Teams のアカウントを所持している。生徒は履修している科目の「チーム」に所属し、授業の連絡や課題提出などに活用している。授業以外にも部活動や委員会活動等で活用している。

【ポイント3】 Microsoft 365 を制作活動で活用



Excelの図形機能を使ってロゴマークを作成し、タブレットPCで提示して発表活動を行った。作品をその場ですぐに共有することで、意見交換によってデザインの改善を行うなど、学びを深めることが出来た。

今後に向けて

- 時代のニーズに対応した高度な画像作成に向けて、美術デザインの授業内でICT機器の活用場面を広げていく必要がある。
- 美術デザインの学びを深めるにあたり、情報機器を扱う活動が今後より重要となってくる。情報科をはじめ、教科横断的な連携による授業実践の在り方を検討していく。